

福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 11 月 2 日
東京電力株式会社

<タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

- ・6/17 20:00 放射性物質除去装置の本格運転を開始。
- ・6/24 12:00 淡水化装置(逆浸透膜型)における処理を開始。
- ・6/27 16:20 循環注水冷却を開始。
- ・8/7 16:11 蒸発濃縮装置の本格運用を開始。
- ・8/19 19:33 第二セシウム吸着装置(B系ライン)を起動し、セシウム吸着装置および除染装置との並列運転によるたまり水の処理を開始。19:41 定常流量に到達。

[貯蔵設備]

- ・6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付中。

トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・10/28 9:54～10/31 10:02 移送実施
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・10/20 10:00～10/28 9:16 移送実施 ・11/2 10:11～ 移送開始
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク ・仮設タンク メガフロート	・11/1 移送なし ・11/2 10:00～15:00 移送実施

移送先	移送先の水位状況 (11/2 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 2,932 mm(水位上昇累計: 4,149 mm) 11/1 7:00 から 106 mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 1,571 mm(水位上昇累計: 2,297 mm) 11/1 7:00 から 501 mm 下降

トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (11/2 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. < + 850 mm (11/1 7:00 と同じ)	O.P.+ 4,283 mm (11/1 7:00 から 32 mm 上昇)	O.P.+ 4,281 mm (11/1 7:00 から 23 mm 上昇)
2号機	O.P.+ 2,876 mm (11/1 7:00 から 53 mm 上昇)	O.P.+ 2,907 mm (11/1 7:00 から 49 mm 上昇)	O.P.+ 2,983 mm (11/1 7:00 から 49 mm 上昇)
3号機	O.P.+ 3,237 mm (-)	O.P.+ 3,059 mm (11/1 7:00 から 22 mm 上昇)	O.P.+ 3,237 mm (11/1 7:00 から 25 mm 上昇)
4号機	-	O.P.+ 3,039 mm (11/1 7:00 から 14 mm 上昇)	O.P.+ 3,036 mm (11/1 7:00 から 変化なし)

11/1 15:00 の値。3号機水位計電源不調のため、11/2 7:00 の値は未採取。

<放射性物質のモニタリング>

海水核種分析結果(参考値) 10/24 採取分より、放射能濃度の検出限界値を下げる取り組みを開始。

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5~6号放水口北側約30m	11/1	8:40	ND	0.04	0.04
福島第一 1~4号放水口南側約330m	11/1	8:20	ND	ND	0.01
福島第二北放水口(福島第一から約10km)	11/1	8:20	ND	0.02	ND

・その他、11/1に採取した福島県沿岸1地点および10/31に採取した沖合4地点の海水における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)については全てND。

<使用済燃料プールの冷却> (11/2 11:00時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中(8/10 11:22~)	21.5
2号機	循環冷却システム	運転中(5/31 17:21~)	24.7
3号機	循環冷却システム	運転中(6/30 18:33~)	23.1
4号機	循環冷却システム	運転中(7/31 10:08~)	31

[4号機]・8/20~ 使用済燃料プール塩分除去装置の運転を開始。

・11/2 10:16~12:20 使用済燃料プールへヒドラジン[腐食防止剤]を注入(約2m³)。

<原子炉压力容器への注入・原子炉の状況> (11/2 11:00時点)

号機	注入状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約7.6m ³ /h)	50.6	51.6	124.0 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約3.0m ³ /h,炉心スプレイ系:約7.0m ³ /h)	71.3	75.1	113 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約2.5m ³ /h,炉心スプレイ系:約8.0m ³ /h)	64.3	70.4	101.5 kPaabs

[1・2号機]・11/2 4:14 1号機原子炉への給水系からの注水量を約7.5m³/h、2号機原子炉への給水系からの注水量を約3.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約7.0m³/hにそれぞれ調整。

2号機ホウ酸水注水に伴い変更していた注水ラインを1・2号機タイラインへ戻した際に併せて調整を実施。

[4号機][5号機][6号機] 特に変化なし。

<その他>

・10/7~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5、6号機滞留水浄化後の水を利用し、散水を継続実施中。

・11/2 2:48~3:47 2号機原子炉格納容器ガス管理システムにより11月1日に採取した放出ガスの核種分析を行ったところ、短半減期核種(キセノン 133, 135)の検出の可能性があると判明。2号機の原子炉温度、圧力およびモニタリングポストの値については継続的に監視を行い有意な変動がないが、核分裂反応が発生している可能性が否定できないことから、原子炉の注水ラインよりホウ酸水の注水を実施。

以上